

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00728

研究課題名（和文）「アメリカの覇権的秩序」に代わる戦後世界秩序像の探求：J・F・ダレスを焦点に

研究課題名（英文）Search for Ways to Comprehend the Post-War World Order in Place of "American Hegemony"

研究代表者

小野澤 透 (Onozawa, Toru)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：90271832

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、「アメリカの覇権」という概念に立脚した既存の分析枠組みとは異なる形で、20世紀中葉に出現したアメリカを中心とする世界秩序を把握する方途を探った。「覇権的秩序」に代わる新たな包括的な枠組みを提示するには至らなかったものの、メンバーの個別研究においては、アメリカのパワーの限界に着目し、戦後の国際的な制度や枠組みが同盟国その他との交渉を通じて形成されていく過程を明らかにし、あるいは、トランスナショナルな国際社会におけるいわゆるソフト・パワーの影響を検討すること等を通じて、「アメリカの覇権」を相対化することの重要性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アメリカを中心とする世界は、20世紀中葉に出現し、形を変えながら21世紀にまで存続している。それは、ローマ帝国やモンゴル帝国の時代などと同様に、人類史におけるひとつの特異な時代であり、その生成・発展・衰退の過程や構造の変化は将来にわたって歴史研究の対象となるに違いない。本研究は、同時代的な問題解決を目指すのではなく、将来にわたって続くであろう当該の時代についての歴史研究であるが、アメリカのパワーの限界、同盟国との交渉を通じて形成された国際的制度のありよう、いわゆるソフト・パワーとして行使された国際社会への影響力などに関する研究成果は、同時代の世界を把握する上でも有益な知見を含んでいる。

研究成果の概要（英文）：This project explored frameworks to comprehend the America-centered world order that emerged in the mid-twentieth century in place of conventional ones predicated on the concept of "American hegemony," which so often prove insufficient and/or over-simplified. Even though the project team as a whole did not provide a comprehensive framework in place of "hegemonic order," its members have published books and articles that underline the importance of taking relative views on "American hegemony," by focusing on the limits of American power, the negotiated nature of post-war international institutions and arrangements, and/or the impacts of so-called soft power upon international and trans-national communities.

研究分野：アメリカ史

キーワード：冷戦 アメリカ合衆国 外交 ジョン・フォスター・ダレス

1. 研究開始当初の背景

冷戦後に出現した「一体化した世界」では「米国の覇権」の下に「リベラルな国際秩序」が拡大・深化すると想定されていた。しかし実際には 21 世紀が進むにつれて、世界の分断が再び顕在化し、冷戦期の用語であるはずの「西側」諸国という呼称すら違和感なく用いられるようになってきている。これらは冷戦後に新たに出現したものではなく、冷戦期までに存在していた国際的・地域的秩序が再浮上した結果であると考えられる。現代から遡及する問題意識も視野に入れつつ、「米国の覇権」とは異なる形で第二次世界大戦後の世界秩序を再考する必要があると考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、これまで普遍的で均質な「米国の覇権的秩序」と捉えられがちであった第二次世界大戦後の国際秩序を、多層的な秩序、あるいは地域的秩序の総和として捉え直すという、新たな視点から再検討する。時期的には、両大戦間期から冷戦期を主たる対象とするが、現代から遡及する視点も取り込むために、現代をも視野に入れる。とりわけ「米国の覇権」の頂点と一般に見做されてきた 1950 年代の米国外交で重要な役割を担い、それに先立つ時期にも米国の外交エリートの中心近くにあり続けたジョン・F・ダレスに焦点を当てる。

3. 研究の方法

(1) 本プロジェクトは、実証的な歴史研究を本旨とするため、メンバー各自の個別研究を研究の中心に据え、個別的研究から得られた知見から「米国の覇権的秩序」に代わる新たな秩序の全体像を導き出すことを目指す。

(2) 実証的な歴史研究の基礎として、一次史料の収集と分析は最大級の重要性を有する。本プロジェクトでは、ダレス関係文書マイクロフィルム(Correspondence series of the speeches series of the personal papers of John Foster Dulles, 67 reels)の電子化を行い、共同研究のための基礎史料としてメンバーに配布する。その上で、研究班メンバーが、各自で研究課題に関連する文献を収集して先行研究の整理を進めるとともに、各メンバーが隔年を目途に海外で史料調査を行う。史料調査は、メンバー間で調整を行うことなく各メンバーの裁量にて行うものと、メンバー全員で共同で調査を行うものを想定していた。

(3) ダレスを中心にして、アメリカの超党派的な外交エリートの世界秩序構想の形成過程とその内実を検討し、戦後の世界各地における地域秩序の形成過程とその内実を具体的に検討した上で、地域秩序の集合体として戦後秩序像を再構築し、前記との比較を通じて、両者間の断絶と連続性を検討し、以上の作業全体を通じて、アメリカの「覇権」の限界をも構造的・体系的に把握し得るような新たな戦後世界秩序像を提示することを目指す。

(4) 実際には、コロナ禍により、海外調査をはじめとする史料調査の予定が回復不能なほどに崩れてしまった。それに伴って、ダレスを中心とする計画的な新規の史料収集は断念し、それに代えて、メンバー各自が保有あるいはアクセスできる史料を用いて、対象とする時代についても当初の予定以上に幅広く捉えて、メンバー各自の個別研究により、研究課題を探求していく方針に転換した。

4. 研究成果

本プロジェクトは、コロナ禍による研究計画の大きな混乱の影響などもあり、全体を束ねる論文集等の刊行には至っていないものの、多岐にわたる個別的な研究成果を生み出した。以下、4 項目に分けて、研究班メンバーの研究成果を記す。

(1) 概説的研究

・長期的なスパンからアメリカの対外関係・対外政策を概観する多くの研究成果を発表できたことは、本プロジェクトの大きな成果である。小野沢は、アメリカ史の概説書において、南北戦争後から 21 世紀にかけての米国の対外関係・対外政策について、それぞれの時期的な特徴と政策的な一貫性の欠如を強調する形で概観し、アメリカ外交を俯瞰する視点を提示した。青野は、戦後アメリカ外交を大きく規定した冷戦の構造的性質とその歴史的展開を、同盟・脱植民地化・核兵器・デタントといったキーワードに着目して概観する論考を発表したほか、戦後アメリカ政治外交史の概説書において建国期から第二次世界大戦終結までの内政・外交を概観した。倉科は、アメリカ史の概説的研究において、国内政治と対外関係の関連に注目しつつ、一方の変容が他方の変化につながる過程を具体的に検討した。

・小野沢は、アメリカを中心に展開してきた新自由主義と(第二次)グローバリゼーションを歴史的に俯瞰する観点から、歴史的時代としての「現代」の時期区分を行う視点を提示する論考を発表した。

・小野沢は、戦後から現代に至る中東域内の国際関係の展開に関する概説において、アメリカの地域的な中東政策の変遷およびアメリカのパワーの限界に着目する視点を提示した。

・中嶋は、建国期のアメリカの対外構想、20 世紀中葉の日米関係にも焦点を当てたアメリカ外交史論、さらには冷戦終焉に際してのアメリカ外交に関する先行研究の整理を通じて、ア

アメリカ的国際秩序観の輪郭を考察した。

(2) 第二次世界大戦以前

・三牧は、ジョン・F・ダレスとその同時代人たちが関わった大戦間期の民間団体の活動の分析を通じ、この時代の「国際主義」として語られてきた外交思潮の多様性を明らかにした。とりわけ、アジア太平洋の地域協力を掲げて 1925 年にハワイのホノルルで設立された太平洋問題調査会の議事録や関連文書の具体的な考察を通じて、欧米の国際主義とは異なる、さらにはその帝国主義や植民地主義を批判的に乗り越えようとする国際主義が育まれていったことを明らかにした。

・中嶋は、アメリカを中心とする国際秩序が形作られる途上にあった 20 世紀はじめに渡米経験のある洪沢栄一、米国との知的関係の深い新渡戸稲造の弟子たち、とりわけ同秩序の絶頂期である 1950 年代に日本のアメリカ研究の祖として活躍した高木八尺について、実証的に検討した。

(3) 戦後・冷戦期

・中嶋は、プリンストン大学マッド原文書図書館所蔵のジョン・F・ダレス文書に収められた、国際主義を信奉する歴史家ジェームズ・T・ショットウェル（コロンビア大学教授：パリ不戦条約の起草者としても知られる）とダレスの往復書簡等を閲読し、アメリカの覇権的秩序の形成を牽引した冷戦の闘士という一般のイメージとは異なるダレス像を提示するとともに、本研究課題の対象である 20 世紀中葉のアメリカ合衆国を中心とする国際秩序との兼ね合いという観点から、戦前から 1960 年代にかけての日米文化関係を分析した。

・中嶋は、前記のダレス文書に基づき、20 世紀後半のアメリカを中心とする国際秩序における西半球（南北アメリカ）の位置づけを考察した。

・小野沢は、戦後の米国の対アジア政策の主眼が一貫して日本の経済発展のためのアジア後背地の確保にあった、とする先行研究に対して、ダレスが国務長官の地位にあった 1950 年代前半の米国の対日政策の重要な目標が日本の（対アジアに限らぬ）経済的競争力の涵養にあったことを実証し、戦後米国の対アジア政策の主眼はむしろ日本の経済力をアジア地域の安定のために活用することであったとの見通しを提示した。

・青野は、戦後アメリカ政治外交史の概説書において、ダレスが国務長官として活躍したアイゼンハワー政権期との継続性と断絶性に着目しつつケネディ政権期の内政・外交を検討した。

・倉科は、ヨーロッパ国際関係における「ドイツ問題」の変遷を歴史的に通観し、アメリカをはじめとする周辺諸国が（西）ドイツをどのように位置づけ、それに基づいてどのような政策を施行したのかを検討した。

・倉科は、1960 年代後半を対象に、アメリカが NATO における協力関係をどのように構想しそれを実現しようとしたか、そしてアメリカの構想に対してヨーロッパ諸国がどのように反応したかを、同盟内大国と中小国それぞれの異なる対応に着目して実証的に解明した。

・小野沢は、1960～70 年代の中東・ペルシャ湾からの英国の撤退に伴う政治的・軍事的な変動に際して、米国がみずからの政治的・軍事的な責任を回避しつつ、親西側的な新たな地域的秩序を構築していった過程を具体的に分析した。

(4) 現代

・小野沢は、21 世紀の同時代的な中東における秩序の変容およびそれへの米国への関与を、それぞれの歴史的な展開の中に位置づけながら分析する、一連の論考を発表した。

・三牧は、転換期にある現在のアメリカ外交の潮流について具体的に分析し、国際秩序の防衛・維持のためのアメリカの能動的な関与を主張する「リベラルな国際主義」論が、大戦間期の多様な運動や思想を歴史的に理解することを妨げてきたばかりではなく、アメリカの対外政策が往々にして国際秩序を破壊し人命の犠牲をもたらしてきたことを軽視する原因ともなり、また現在のアメリカがオルタナティブな秩序構想力を持つことを困難にしていることを批判的に検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 巻 22
2. 論文標題 高木八尺と戦後の知的交流の再生 アメリカ研究との関連を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 巻 44
2. 論文標題 書評「志田淳二郎『米国の冷戦終結外交 ジョージ・H・W・ブッシュ政権とドイツ統一』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教アメリカン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 22
2. 論文標題 高木八尺と太平洋問題調査会：対米協調と新秩序追求のはざままで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 44
2. 論文標題 「人道」に潜むレイシズム：ウクライナとアフガニスタン、2つの人道危機	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教アメリカンスタディーズ	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 862
2. 論文標題 ワシントン会議後の「新秩序」の模索 太平洋問題調査会の考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 653
2. 論文標題 アメリカは中国に対して体制的優位にあるか? -揺らぐ民主主義、人権外交	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 120(1・2)
2. 論文標題 コロナ危機で変わるアメリカー「大きな政府」への転換点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 376-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiko Mimaki	4. 巻 49(3)
2. 論文標題 Law Against Empire, or Law For Empire? American Imagination and the International Legal Order in the Twentieth Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal for Imperial and Commonwealth History	6. 最初と最後の頁 553-575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03086534.2021.1920806	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 202
2. 論文標題 1930年代に帰国する米国？－クインジー研究所と新しい国際主義の模索	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiko Mimaki	4. 巻 6(2)
2. 論文標題 Worst Time since the End of WWII? - Toward Societal Reconciliation Between Japan and Korea	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 S/N Korean Humanities	6. 最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17783/IHU	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 巻 3445
2. 論文標題 書評「チャールズ・A・ピーアド(開米潤訳)『大陸主義アメリカの外交理念』(藤原書店、2019年)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 巻 82(2)
2. 論文標題 Book Review "James Monroe: A Republican Champion"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Historian	6. 最初と最後の頁 229-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00182370.2020.1778948	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢 透	4. 巻 1149
2. 論文標題 「同時代」と歴史的時代としての「現代」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 91-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 53(2)
2. 論文標題 ヨーロッパ知識人がみた知と権力 - ハンス・J・モーゲンソーとスタンリー・ホフマンのアメリカ知識人批判	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 99-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 19
2. 論文標題 書評 井口治夫『誤解された大統領 - フーヴァーと総合安全保障構想』(名古屋大学出版会、2018年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 103-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiko Mimaki	4. 巻 35
2. 論文標題 Non-Governmental Organizations and Origins of Asia-Pacific Regionalism - The Institute of Pacific Relations (IPR: 1925-1961)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 中嶋啓雄
2. 発表標題 渋沢栄一とアメリカのフィランソロピー
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋啓雄
2. 発表標題 アジア・太平洋における自由主義的帝国間秩序と「新渡戸宗の使徒」 両大戦間期から戦後へ
3. 学会等名 国際政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiko Mimaki
2. 発表標題 Beyond Pan-Asianism: The Non-Aligned Movement in the Contemporary World
3. 学会等名 Koc University Center for Asian Studies Online Symposium "Pan-Asianism and Beyond" (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 ヘイトの時代と政治研究
3. 学会等名 立教大学アメリカ研究所 公開シンポジウム「「アジアン・ヘイト」とはなにか（オンライン）（招待講演）」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Human Rights Challenges Facing the Biden Administration
3. 学会等名 政策研究大学院大学The 193rd GRIPS Forum (Online) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 アメリカにおけるリベラリズムの思想的優位性をめぐって
3. 学会等名 第43回政治哲学研究会 シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiko Mimaki
2. 発表標題 Toward a Transnational Understanding of History: The Roles of an Epistemic Community
3. 学会等名 International Political Science Association (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 リベラルな盟主? - アメリカの見えない戦争
3. 学会等名 日本アメリカ学会第55回年次大会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 倉科一希
2. 発表標題 冷戦と「ドイツ問題」
3. 学会等名 国際政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seiko Mimaki
2. 発表標題 Toward a More People-Oriented Security Policy: The Recent Developments of Progressive Circles in Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2021 Annual Conference (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiko Mimaki
2. 発表標題 Public Discussion 75 Years Since: Confronting memories of WWII in East Asia
3. 学会等名 EU-Russia Civil Society Forum, Germany (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 米大統領選の行方シリーズ アメリカ例外主義のおわり？
3. 学会等名 日本記者クラブ会見 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seiko Mimaki
2. 発表標題 Stay out of Politics, or Get into Politics?- The Institute of Pacific Relations' Struggle for A New Order in Asia-Pacific
3. 学会等名 US Think Tanks & Foundations in World Politics (City University of London Webinar Series(Online)) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 大戦間期の戦争違法化と安達峰一郎
3. 学会等名 国際法協会日本支部2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中嶋啓雄
2. 発表標題 「西半球」概念と米州機構 モンロー・ドクトリンとの関連において
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 小野沢透 (森聡・福田円編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 303
3. 書名 入門講義 戦後国際政治史	

1. 著者名 Hiroo Nakajima ed., Seiko Mimaki (contributor)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 182
3. 書名 International Society in the Early Twentieth Century Asia-Pacific: Imperial Rivalries, International Organizations, and Experts	

1. 著者名 小野沢透（共編著）、青野利彦（寄稿）、三牧聖子（寄稿）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 321
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 三牧聖子（石田淳編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 204
3. 書名 戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー	

1. 著者名 三牧聖子, 川上洋平, 古田拓也, 長野晃翻訳・解説	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 369
3. 書名 リベラリズム 失われた歴史と現在	

1. 著者名 青野利彦, 倉科一希	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 396
3. 書名 現代アメリカ政治外交史 「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで	

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 350
3. 書名 グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育 日本史と世界史のあいだで	

1. 著者名 中嶋啓雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 国際交流に託した渋沢栄一の望み 「民」による平和と共存の模索	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 524
3. 書名 世界万国の平和を期して - 安達峰一郎著作選	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 競合する歴史認識と歴史和解	

1. 著者名 小野沢透, 肥後本芳男	4. 発行年 2024年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 349
3. 書名 アメリカ史：世界史の中で考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	倉科 一希 (Kurashina Itsuki) (00404856)	同志社大学・グローバル地域文化学部・教授 (34310)	
研究分担者	中嶋 啓雄 (Nakajima Hiroo) (30294169)	大阪大学・国際公共政策研究科・教授 (14401)	
研究分担者	青野 利彦 (Aono Toshihiko) (40507993)	一橋大学・大学院法学研究科・教授 (12613)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三牧 聖子 (Mimaki Seiko) (60579019)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・准教授 (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関